

学校健診の目的と方法について

1. 学校で健診を行う意義について

学校の健康診断（学校健診）には主に3つの目的があります。

1つめは、体の成長の様子を確認することです。2つめは、学校生活を送る上で問題となる病気を見つけて、必要なら治療に結びつけることです。そして3つめは、将来の健康な生活をおびやかすような病気を発見し、重くなるのを防いだり、合併症を起こらないようにしたりすることです。病気の中には、子どもの頃には症状がないか、とても軽い、または症状が続いていても慣れているために本人や家族が気づきにくいものがあります。大人になって症状が悪化したり、体の他の部分に負担がかかって別の病気（合併症）になったりし、初めて元の病気がわかる場合もあります。気づいた時に手遅れとなっていたということのないよう、子どものうちに病気を発見するのは大変重要なことです。

2. 健診の方法について

ご家族の皆さんが書く問診票や担任の先生が見た学校での様子、学校医の診察、検査結果などを合わせて検討し、病気を見つけます。

学校医の診察は主に、視診、触診、聴診により行います。

検査には、身体測定、聴力検査、視力検査、尿検査、心電図検査があります。検査の結果だけでは病気かどうかわかりません。

必ず、医師の判断が必要です。

船橋市の学校健診では、尿検査と心電図検査の異常は、教育委員会を通して専門医の判定を受けることになっています。その他の検査異常については、医療機関を受診していただくこととなります。



視診とは？

目で見て診断することです。内科健診では、体格、姿勢、骨格、手足の動かし方、顔色や表情、皮膚の状態などから病気がないかどうか読み取ります。耳鼻科や眼科、歯科健診も主に視診によって診断します。

<視診で分かる又は疑う病気の例>

- ・ 体格：肥満症、やせ症、一部の内分泌・代謝疾患（ホルモンや血糖値の異常など）
- ・ 骨格の病気：漏斗胸、側弯症
- ・ 血液の病気：貧血、血が止まりにくい病気（血小板減少症や白血病など）
- ・ 皮膚の病気：アトピー性皮膚炎、じんましん、膠原病



触診とは？

手で触って診断することです。学校健診では、首にあるリンパ節や甲状腺を触れて腫れていないか確かめることがある他、痛みがある場合などに触って確認することもあります。

聴診とは？

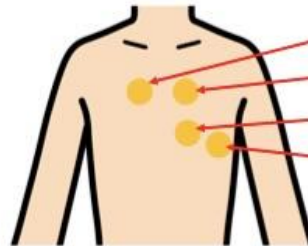
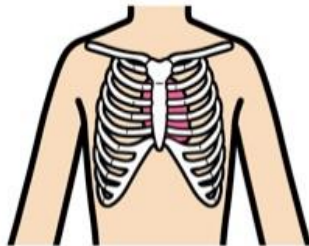
聴診器を当てて診断することです。学校健診では主に胸と背中中の聴診をします。

<聴診の異常より疑う病気の例>

- ・ 心臓の病気（不整脈、心房・心室中隔欠損症、僧帽弁・大動脈弁逆流症など）
- ・ 肺の病気（気管支喘息や肺炎など）

～聴診器を当てる場所について～

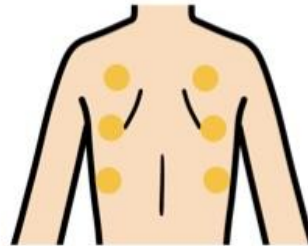
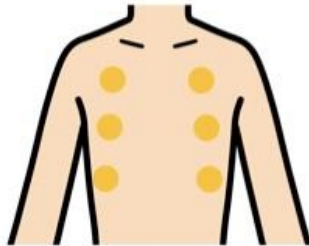
心臓の音を聴く時



それぞれ、
大動脈弁
肺動脈弁
心臓中心
心臓下部

付近の雑音を聴きます
不整脈もわかります

肺の音を聴く時



深呼吸をすると
肺がきちんとふくらんでいるか、
喘息や肺炎の兆候がないか、
などがわかります

学校から児童生徒に健診のお話をいたします。保護者の皆様も、健診の目的を理解されて、お子さんにお話をしてあげてください。学校医、学校関係者はお子さんのプライバシーを守り、精度の高い健診を常に考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

船橋市医師会

船橋市教育委員会 保健体育課